

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
鈴木 耕太郎 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：日英対訳で読みひらく新しい日本文化史</p> <p>著 者：斎藤 公太</p> <p>出版社：神戸大学出版会 ISBN：9784909364272</p>	<p>英語が苦手だ。仮にも大学の教員ともあろう者がこんなことを書くのは大変恥ずかしい。でも苦手だ。英検だといまは 3 級レベルかもしれない（またまたご謙遜を……という方は試しに簡単な単語でも私に出してみたい。答えられないから。笑えないから）。心底情けないし、勉強せねばとは常に思っている。で、この書籍である。まずは日本語の部分を読んで欲しい。日本の各時代において重要と思われるキーワードとそのキーワードをめぐる時代背景などが 6 ページ（英訳と併せると 12 ページ）で大変コンパクトにまとまっている。内容も濃い。が、日本語として難解なわけではない。日本文化史の入門書として本当に手に取りやすいものといえる。そのうえ、隣にはそのまま英訳がついている。日本文化史を学びつつ、英語も勉強できる。読むしかない。</p>
<p>② 図書名：比婆荒神神楽の社会史</p> <p>著 者：鈴木 昂太</p> <p>出版社：法蔵館 ISBN：9784831862921</p>	<p>比婆荒神神楽（ひばこうじんかぐら）——広島県庄原市の東城・西城地域におよそ 350 年前から伝わっているとされる民俗芸能である。神楽研究者にはよく知られているこの神楽だが、はたしてなぜこの長きにわたって伝承され続けているのか？ 筆者は長くこの神楽を調査しており、とくに神楽の「担い手」に着目している。「伝承する」というと、私たちはなぜか「昔のまま」「かたちを変えずに」伝えているものと考えてしまうが、はたして……。文献調査とフィールドワークを丹念に行い、神楽のあり方から近世から近代の移り変わりをも見つめた一冊。民俗学や文化人類学だけでなく、社会学などを学ぶ人にもぜひ手に取って欲しい一冊。</p>
<p>③ 図書名：女霊の江戸怪談史 大衆化する幽霊像</p> <p>著 者：堤 邦彦</p> <p>出版社：三弥井書店 ISBN：9784838234219</p>	<p>現代においても、都市伝説（現代伝説）やネットロアなど、私たちが「怖い！」と思うような話は創られつづけている。ただ、その手の話がもっとも盛んであったのが「近世（江戸時代）」といえるのではないか。近世を生きた人たちにあって怪談とは何であったのか。タイトルにもあるように、第 3 章以降は女性の霊に着目してさまざまな視座から怪談を捉えている。序章の「幽霊とは何か」、第一章「仏教と怪談」も基本的な概念を抑えるうえで勉強になる。怖い話は苦手な人も手に取れる一冊。怪談、研究してみませんか？</p>